

作成日：2017年12月13日

改訂日：2018年07月01日

安全データシート（追加情報）

1. 化学品及び会社情報

製品名：日産トランスフォーム™フロアブル

会社名：日産化学株式会社

住所：東京都中央区日本橋二丁目5番1号

担当部門：農業化学品事業部企画開発部登録グループ

電話番号：03-4463-8310 FAX番号：03-4463-8331

緊急連絡電話番号：農薬中毒事故時の問合せ先 公益財団法人日本中毒情報センター

中毒110番	一般市民専用電話 (情報提供料：無料)	医療機関専用有料電話 (一件2,000円)
大阪(365日・24時間対応)	072-727-2499	072-726-9923
つくば(365日・9~21時対応)	029-852-9999	029-851-9999

用途及び使用上の制限：農薬（殺虫剤）、農薬登録内容以外の使用は不可

本製品に関するその他の情報については、次ページ以降の安全データシート（SDS）

「トランスフォーム™ フロアブル」（ダウ・アグロサイエンス日本株式会社、発行日：2017年12月06日）を参照してください。

安全データシート

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社

化学品の名称: トランスフォーム™ フロアブル

発行日: 2017/12/06

印刷日: 2017/12/06

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社は、この製品の使用者が、重要な情報を記載しているこの(M) SDSを熟読され、ご理解されるようお願いしております。このSDSは、職場における人の健康および安全性の保護、環境保護、緊急時の対応を支援する情報を製品の使用者に提供します。製品を使用される際は、主に製品容器に添付されている製品ラベルを参照する必要があります。

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: トランスフォーム™ フロアブル

推奨用途及び使用上の制限

特定用途: 殺虫剤

会社情報

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社

140-8617

東京都品川区東品川2丁目2番24号

天王洲セントラルタワー

会社電話番号:

03-5460-2100

das.japan@dow.com

緊急連絡電話番号

24時間対応緊急連絡先: 0120-00-1017

緊急連絡電話番号: 0120-00-1017

2. 危険有害性の要約

GHS分類

水生環境有害性(急性) - 区分2

水生環境有害性(長期間) - 区分2

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



危険有害性情報

長期継続的影響によって水生生物に毒性。

注意書き**安全対策**

環境への放出を避けること。

応急措置

漏出物を回収すること。

廃棄

残余内容物・容器等は産業廃棄物として適正に廃棄すること。

他の有害危険性

データなし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名	CASRN	化審法番号	安衛法番号	濃度又は濃度範囲
スルホキサフロル	946578-00-3			9.52%
プロピレングリコール	57-55-6	(2)-234	(2)-234	4.5%
セルロース	9004-34-6	(8)-568	(8)-568	1.2%
その他の成分	不特定			84.78%

4. 応急措置

必要な応急措置**一般的アドバイス：**

応急措置担当者は自分の安全確保に注意を払い、推奨されている防護服（耐薬品手袋、飛沫防護）を使用する。ばく露する可能性がある場合は、第8項の保護具の情報を参照。

吸入：新鮮な空気のある場所に移動させる。呼吸停止の時は救急隊または救急車を呼び、人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具（ポケットマスクなど）を使用する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。

皮膚接触：汚染された衣類を脱がせる。直ちに皮膚を大量の水で15～20分間洗浄する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。

眼に入った場合：眼を開いたまま15～20分間でゆっくりと優しく洗い流す。コンタクトレンズを装着している場合は、5分洗眼してからはずし、さらに洗眼を続ける。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。

飲み込んだ場合：緊急医療措置は必要ない。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状：上記の応急措置の記述、下記の緊急治療及び必要とされる特別処置の指示に記載されている情報に加えて、重要な症状や影響は項目11の有害性情報に記載されている。

緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

医師に対する特別な注意事項：特別な解毒剤はない。ばく露に対する治療は、患者の症状に応じて臨時的処置を行う。中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、この安全データシートのほか、できれば製品の容器またはラベルを手元に用意すること。

5. 火災時の措置

消火剤：水噴霧または散細水。粉末消火器。二酸化炭素消火器。泡消火剤。静かな水噴霧は、消火用ブランケットとして使用できる。

使ってはならない消火剤：データなし

特有の危険有害性

有害燃焼副産物：火災時の煙には、元の物質に加えて、毒性や刺激性があるかもしれない様々な燃焼生成物が含まれていることがある。燃焼生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない：硫黄酸化物類。窒素酸化物。フッ化水素。濃い煙。一酸化炭素。二酸化炭素。

異常な火災および爆発の危険：火災の際、ガスの発生により容器が破裂することがある。製品が燃焼すると濃い煙が発生する。熱い液体に直接放水すると、激しい蒸気の発生や噴出が起こることもある。

消防士へのアドバイス

消火手順：人々を避難させる。火を隔離して関係者以外の立ち入りを禁止する。環境に対する影響を最小限にするため、制御焼却を検討する。制御できない水が汚染を広げるおそれがあるため、泡消火剤が望ましい。火が消えて再発火の危険がなくなるまで、水スプレーを用いて火に曝された容器および火災の影響を受けた領域を冷却する。保護された場所から、あるいは十分に安全な距離から消火に当たる。無人ホースホルダーまたはモニターノズルの使用を考慮する。安全弁装置から聞こえる音が大きくなったり、容器の色が変わったりした時は、直ちに全ての人をその場所から退避させる。直接棒状放水しない。火災を広げるかもしれない。危険を伴わずにできるのであれば、容器を火災場所から移動させる。人の保護や建物の損害を最小限にするために、燃焼する液体を水で流して移動させることもできる。静かな水噴霧は、消火用ブランケットとして使用できる。可能なら消防水の流出を防ぐ。消防水の流出を防げないと環境破壊を引き起こす可能性がある。本SDSの「漏出時の措置」および「環境影響情報」の項を参照する。

消火を行う者の保護：陽圧式自給式呼吸器 (SCBA) および防火服 (防災ヘルメット、コート、ズボン、長靴および手袋を含む) を着用する。消火活動の際、この物質との接触を避ける。接触の可能性がある場合は、耐薬品性の防火服と自給式呼吸器を使用する。もしこれらが無い場合は、自給式呼吸器付き耐薬品性の全身服を使用し、離れた場所から消火活動する。火災後または火災ではなく清掃時に用いる保護具については、関連の項を参照する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：適切な保護具を用いること。追加情報として、第 8 項、暴露防止及び保護措置を参照。

環境に対する注意事項：土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。項目 12 の環境影響情報を参照。自然の水路に漏洩するか放出されると、水生生物を殺す可能性が高い。

封じ込め及び浄化の方法及び機材：可能なら、漏出物は回収する。少規模の漏洩：以下の物質で吸収させる：粘土。泥。砂。掃き取る。正しくラベルの貼ってある適切な容器に回収する。大規模の漏洩：回収支援が必要な場合、弊社に連絡する。追加情報として、項目 13 の廃棄上の注意を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：子供の手の届かないところに置くこと。飲み込まない。眼、皮膚、衣服との接触を避ける。蒸気またはミストの吸入を避ける。取り扱った後は十分に洗うこと。使用時には換気を十分に確保する。項目 8 のばく露防止及び保護措置を参照。

保管：乾燥した場所に保管すること。納品時の容器でのみ保管する。使用していないときは、容器の蓋をしっかりと閉めること。食品、食材、医薬、飲料水の近くに保管しない。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

ばく露限界値が存在する場合は以下に記載されている。

化学名	国際規制	リストのタイプ	数値/注記
プロピレングリコール	US WEEL	TWA	10 mg/m ³
セルロース	ACGIH	TWA	10 mg/m ³
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M 吸入性粉じん	2 mg/m ³
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M 総粉塵	8 mg/m ³

製造、混合作業、および包装作業に従事する労働者に対する推奨。散布作業者及び取扱者はラベルを読み、適切な防護具および防除服を装着すること。

曝露防止

工学的制御：局所排気装置や他の排気装置を使用して、気中濃度が許容濃度や管理濃度より低くなるように管理する。許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、通常の作業は全体換気を行うことで十分である。一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。

保護具

呼吸用保護具：許容濃度や管理濃度を超える可能性がある場合、呼吸器保護具を着用すること。許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、呼吸器刺激や不快感等がある場合、又はリスク評価において必要であると示された時、呼吸器保護具を着用する。たいていの場合、呼吸用保護具は必要ない。ただし、不快感がある場合は、認可された空気清浄呼吸器を使用する。

以下は効果的な空気清浄呼吸器の種類である： 防塵フィルター付き有機ガス用

手の保護具：長時間または何度も繰り返し接触する可能性がある場合は、この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。望ましい手袋の素材の例： ブチルゴム。天然ゴム(ラテックス)。ネオプレン。ニトリル/ブタジエンゴム(ニトリルまたはNBR)。ポリエチレン。エチルビニルアルコールラミネート(EVAL)。ポリ塩化ビニル(PVCまたはビニル)。注意：特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある：取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件(切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護)、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。

眼の保護具：安全メガネ(サイドシールド付)を着用する。

皮膚及び身体の保護具：清潔で、長袖の、全身を覆う衣服を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状态	液体
色	オフホワイト
臭い	臭いのデータなし。
臭いの閾値	データなし
pH	3.67
融点	液体には該当しない
凝固点	データなし
沸点 (760 mmHg)	データなし
引火点	データなし
蒸発速度(フ・フィルテート=1)	データなし
燃焼性(固体、気体)	データなし
爆発範囲の下限	データなし
爆発範囲の上限	データなし
蒸気圧	データなし
相対蒸気密度(空気=1)	データなし
比重・相対密度(水=1)	データなし
水への溶解度	データなし

n-オクタノール／水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
動的粘度	622.0 mPa.s @ 20 ° C
動粘度	データなし
爆発特性	データなし
酸化特性	データなし
液体密度	1.05 g/ml @ 20 ° C
分子量	データなし

注記： 上記の物理データは、代表値であり、仕様として解釈されるべきものではない。

10. 安定性及び反応性

反応性： 通常の使用条件において既知の危険な反応はない。

化学的安定性： 通常使用温度で熱安定性がある。

危険有害反応可能性： 重合は起こらない。

避けるべき条件： 高温にさらされると製品は分解する。 分解によるガスの発生が密閉システム内の圧力を上昇させる。

混触危険物質： 以下との接触は避ける： 酸塩化物 酸化剤。 還元剤。

危険有害な分解生成物： 分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。 分解生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない： 一酸化炭素。 二酸化炭素。 フッ化水素。 窒素酸化物。 硫黄酸化物類。 有毒ガス類。

11. 有害性情報

本項にはデータが存在する場合に毒性情報が記載される。

急性毒性

急性毒性（経口）

誤飲した場合でも、毒性は非常に低い。 少量を誤飲しても有害な影響があるとは予見されない。

製品として。

LD50, ラット, メス, > 5,000 mg/kg

急性毒性（経皮）

長時間の皮膚接触で、有害量を吸収することはないであろう。

製品として。

LD50, ラット, オスおよびメス, > 5,000 mg/kg

急性毒性（吸入）

ミストへの単回暴露による有害作用はないと考えられる。過剰暴露すると、上気道（鼻と喉）に刺激作用を来すことがある。
製品として、LC50 は決められていない。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

短時間接触では、本質的に皮膚刺激性がない。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

軽度の一過性眼刺激作用を起こすことがある。
角膜損傷は起こらないであろう。

感作性

マウスに接触アレルギーの可能性は認められなかった。

呼吸器感作性：

関連のあるデータは得られていない。

特定標的臓器毒性、単回ばく露

使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。

特定標的臓器毒性、反復ばく露

有効成分について：

動物では、以下の臓器に影響することが報告されている：
肝臓。

発がん性

有効成分について： 実験動物で発がん性が認められた。しかし、影響は特定の種においてでありヒトには適用しない。

催奇形性

実験動物において、高用量で催奇形性が認められた。試験動物では、親動物に対して毒性を示す過剰量を投与すると、体重減少および子の生存率低下が認められた。しかし、影響は特定の種においてでありヒトには適用しない。これらの濃度はヒトで考えられる用量を上回っている。

生殖毒性

有効成分について： 動物試験では、生殖を阻害することを示した。しかし、影響は特定の種においてでありヒトには適用しない。これらの濃度はヒトで考えられる用量を上回っている。少量成分について： 動物試験では、極めて高濃度のセルロースを含む食餌に起因する栄養欠乏の結果として、セルロースが繁殖性および生殖性を阻害することを示した。

変異原性

有効成分について： インビトロでの遺伝毒性試験は陰性であった。動物遺伝毒性試験は陰性だった。

吸引性呼吸器有害性

物性上、吸引性呼吸器有害性は低い。

毒性分析に影響を与えるコンポーネント:**スルホキサフロル****急性毒性 (吸入)**

粉塵への単回ばく露による有害作用はないと考えられる。入手可能なデータによると、呼吸器への刺激は見られなかった。

LC50, ラット, ダスト/噴霧, > 2.09 mg/l LC50 値は、到達可能な最高濃度よりも大きい。この濃度では死に至らない。

プロピレングリコール**急性毒性 (吸入)**

ミストは上気道(鼻と喉)を刺激することがある。LC50, ウサギ, 2 h, ダスト/噴霧, 317.042 mg/l この濃度では死に至らない。

セルロース**急性毒性 (吸入)**

LC50 は決められていない。

その他の成分**急性毒性 (吸入)**

LC50 は決められていない。

12. 環境影響情報

本項にはデータが存在する場合に生態毒性情報が記載される。

生態毒性**スルホキサフロル****魚類に対する急性毒性**

物質は、水生生物に対して高い急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 0.1~1 mg/L)。

LC50, *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス), 止水式試験, 96 h, > 387 mg/l, OECD テストガイドライン 203 あるいは同等のもの

LC50, *Lepomis macrochirus* (ブルーギルサンフィッシュ), 96 h, > 363 mg/l

EC50, *Cyprinus carpio* (コイ), 96 h, > 402 mg/l

無脊椎動物に対する急性毒性

EC50, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 止水式試験, 48 h, > 399 mg/l, OECD テストガイドライン 202 あるいは同等のもの

LC50, *Chironomus sp.* (キロノムス sp.), 96 h, 0.622 mg/l

藻類/水生植物に対する急性毒性

ErC50, *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻), 止水式試験, 96 h, > 100 mg/l

ErC50, イボウキクサ (*Lemna gibba*), 7 d, > 100 mg/l

魚類に対する慢性毒性

最大無影響濃度, *Pimephales promelas* (ファットヘッドミノウ), 流水式試験, 30 d, 死亡率, > 12.9 mg/l

無脊椎動物に対する慢性毒性

最大無影響濃度, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 半止水式試験, 21 d, 成長, 50.5 mg/l

最大無影響濃度, 塩水アミ (*Mysidopsis bahia*), 流水式試験, 28 d, 子孫の数, 0.114 mg/l

地上生物に対する毒性

物質は、鳥に対して軽度の急性毒性を示す (LD50 501~2000 mg/kg)。

物質は、混餌投与すると、事実上、鳥に対して毒性を示さない (LC50 >5000 ppm)。

食餌 LC50, *Colinus virginianus* (コリンウズラ), > 5620mg/kg 体重

経口 LD50, *Colinus virginianus* (コリンウズラ), 676 mg/kg

経口 LD50, *Apis mellifera* (ミツバチ), 48 h, 0.146 マイクログラム/蜂

接触による LD50, *Apis mellifera* (ミツバチ), 48 d, 0.539 マイクログラム/蜂

土壌生息生物類に対する毒性

LC50, *Eisenia fetida* (ミミズ), 0.885 mg/kg

プロピレングリコール**魚類に対する急性毒性**

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L)。

LC50, *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス), 止水式試験, 96 h, 40, 613 mg/l, OECD 試験ガイドライン 203

無脊椎動物に対する急性毒性

LC50, *Ceriodaphnia dubia* (ミジンコ), 止水式試験, 48 h, 18, 340 mg/l, OECD 試験ガイドライン 202

藻類/水生植物に対する急性毒性

ErC50, *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻), 96 h, 生長率阻害, 19,000 mg/l, OECD 試験ガイドライン 201

細菌に対する毒性

最大無影響濃度, *Pseudomonas putida* (シュードモナス - プチダ), 18 h, > 20,000 mg/l

無脊椎動物に対する慢性毒性

最大無影響濃度, *Ceriodaphnia dubia* (ミジンコ), 半止水式試験, 7 d, 子孫の数, 13,020 mg/l

セルロース**魚類に対する急性毒性**

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L)。

LC50, 魚類, 96 h, > 100 mg/l

藻類/水生植物に対する急性毒性

EC50, 藻類, 96 h, 生長率阻害, > 100 mg/l

細菌に対する毒性

LC50, バクテリア, > 100 mg/l

その他の成分**魚類に対する急性毒性**

関連のあるデータは得られていない。

残留性・分解性**スルホキサフロル**

生分解性: この物質は OECD/EC ガイドラインで易生分解性ではなかった。

生分解: 0 %

曝露時間: 28 d

方法: OECD 試験ガイドライン 310

理論酸素要求量: 1.90 mg/mg

光分解性

試験タイプ: 半減期 (間接光分解)

感作性物質: OH ラジカル

大気中半減期: 7.762 h

方法: 推定値。

プロピレングリコール

生分解性: 物質は易分解性である。OECD 易分解性試験に合格している。生分解は、嫌気的条件下 (無酸素) で起こるかも知れない。

10-day Window: 合格

生分解: 81 %

曝露時間: 28 d

方法: OECD テストガイドライン 301F あるいは同等のもの

10-day Window: 非該当

生分解: 96 %

曝露時間: 64 d

方法: OECD テストガイドライン 306 あるいは同等のもの

理論酸素要求量: 1.68 mg/mg

化学的酸素要求量: 1.53 mg/mg

生物学的酸素要求量 (BOD)

培養時間	BOD
5 d	69.000 %
10 d	70.000 %
20 d	86.000 %

光分解性

大気中半減期: 10 h

方法: 推定値。

セルロース

生分解性: 生分解率は、順化により、土壌や水中で高くなるだろう。

理論酸素要求量: 1.18 mg/mg

その他の成分

生分解性: 関連のあるデータは得られていない。

生体蓄積性**スルホキサフロル**

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は低い。(BCF < 100 または Log Pow < 3)

n-オクタノール/水分配係数(log Pow): 0.802 @ 20 ° C 測定値

プロピレングリコール

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は低い。(BCF < 100 または Log Pow < 3)

n-オクタノール/水分配係数(log Pow): -1.07 測定値

生物濃縮因子 (BCF): 0.09 推定値。

セルロース

生体蓄積性: 分子量が比較的大きい(MW1000 超)ため、生物濃縮は起こらないと考えられる。

その他の成分

生体蓄積性: 関連のあるデータは得られていない。

土壌中の移動性**スルホキサフロル**

土壌中移動性がきわめて大きい(Koc 0~50)。

分配係数 (Koc): 40 測定値

プロピレングリコール

ヘンリー定数が極めて低いので、自然水系や湿った土壌からの蒸発は多くないと考えられる。

土壌中移動性がきわめて大きい(Koc 0~50)。

分配係数 (Koc): < 1 推定値。

セルロース

データなし。

その他の成分

関連のあるデータは得られていない。

オゾン層への有害性**スルホキサフロル**

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

プロピレングリコール

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

セルロース

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

その他の成分

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

他の有害影響

スルホキサフロル

この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性(vPvB)があるとは考えられていない。

プロピレングリコール

この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性(vPvB)があるとは考えられていない。

セルロース

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)は評価されていない。

その他の成分

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)は評価されていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法：廃棄物や容器の廃棄が製品ラベルの指示通りに行えない場合は、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。以下の情報は購入時の状態のみに適用される。使用後或いは汚染された場合、特性や記載事項が適合しない可能性がある。適切な法律に則ってきちんとした廃棄物の識別と廃棄方法を決める。生じた物質の毒性や物理的性質を決定するのは廃棄物排出者の責任である。内容物や容器を廃棄する場合は、国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄する。

14. 輸送上の注意

道路及び鉄道輸送に関する分類 (ADR/RID) :

国連輸送名	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N. O. S. (Sulfoxafloor)
国連番号	UN 3082
国連分類	9
容器等級	III

環境危険有害性 Sulfoxaflor

海上輸送に関する分類 (IMO-IMDG) :

国連輸送名 ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID,
N. O. S. (Sulfoxaflor)
国連番号 UN 3082
国連分類 9
容器等級 III
海洋汚染物質(該当・非該当) 該当
MARPOL 73/78 の Annex I Consult IMO regulations before transporting ocean bulk
または II および IBC また
は IGC コードに従い積荷を
運搬する。

航空輸送に関する分類 (IATA/ICAO) :

国連輸送名 Environmentally hazardous substance, liquid,
n. o. s. (Sulfoxaflor)
国連番号 UN 3082
国連分類 9
容器等級 III

この情報は、この製品に関わる特定の法令や輸送上の条件を全てお知らせするものではありません。輸送分類は容器の大きさや国や地域の法令により異なることがあります。追加情報は、弊社の営業担当者またはカスタマーサービスより入手してください。この物質の輸送にあたっては、輸送会社の責任において、適用される全ての法律、規制、規則に従ってください。

15. 適用法令

労働安全衛生法

安衛法 通知対象物質 安衛法 表示対象物質
該当しない。

毒物及び劇物取締法

該当しない。

化管法 (PRTR 法)

該当しない。

消防法

該当しない。

化審法 - 既存化学物質及び新規化学物質リスト (ENCS)

本製品は防腐剤/殺虫剤用途として使用され、当該適用法令の対象である。本剤は化学品登録求から免除される成分を含んでいる。本製品の意図的成分は化学品登録されていないが、免除される用途のみに使用されるからである。

16. その他の情報

改定

ID 番号: 11122923 / A150 / 発行日: 2017/12/06 / 版番号: 1.4

DAS コード: GF-2650

最新の改定事項は、この文書全体にわたって、左側の余白にボールド体の二重線で強調してある。

凡例

ACGIH	米国。 ACGIH 限界閾値 (TLV)
OEL-M	許容濃度
TWA	8-hr TWA
US WEEL	USA. Workplace Environmental Exposure Levels (WEEL)
日本産業衛生学会 (許容濃度)	日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I. 化学物質の許容濃度

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社 は、お客様や(M) SDS の受領者の皆様が、この(M) SDS の掲載データや、この製品に伴う危険有害性を認識し理解するために、(M) SDS を慎重に検討され、必要に応じて適宜しかるべき専門家にご相談されるようお願いしております。掲載内容は誠意をもって提供したものであり、上述の発効日の時点で正確なものであると考えております。ただし、明示および黙示の保証を行うものではありません。法令の要求事項は、改正されたり、地域により異なることがあります。使用に関する適用法令の遵守は使用者の責任です。ここに掲載された情報は出荷した製品についてのものです。製造会社は製品の使用条件について関知するところではありませんので、製品の安全な使用条件は、使用者の責任において決定して下さい。各製造会社固有の(M) SDS などの情報源が増加していますが、弊社は弊社以外の製造会社から入手した(M) SDS に関しては一切責任を負いません。他の情報源から入手した(M) SDS をお持ちの場合や、お手元の(M) SDS が最新版であるという確信が持てない場合は、弊社にご連絡ください。

JP